

# 薬の豆知識



## <ステロイド外用剤>

ステロイド外用剤は、皮膚等の炎症を鎮静させることが十分に証明されており、効果が多大にある反面、半世紀以上の使用経験により副作用についてもよく知られています。ステロイド外用剤について、正しい知識を持って少しでも有効に使用できるようにしましょう。

### ① 強さの分類

ステロイド外用剤は、作用の強さによりストロングスト（最も強い）からウィーク（弱い）までの5群に分類されています。病気の種類、重症度、使用部位や年齢などにより、最適な強さのものを使用していく必要があります。

当院採用のステロイド外用剤のいくつかについて、ご紹介します。

1群	ストロングスト（最も強い）	デルモベート など
2群	ベリーストロング（とても強い）	マイザー ネリゾナ など
3群	ストロング（強い）	メサデルム など
4群	ミディアム（ふつう）	リドメックス アルメタ など
5群	ウィーク（弱い）	当院採用なし

顔の表面はもともと毛細血管が多く、ステロイド外用剤の皮膚からの吸収もよいので、原則としてミディアム（ふつう）以下のものを使用します。

使用する部位によって薬の種類（軟膏・クリーム・ローションなど）を変えることも必要となってきます。医師の指示通りに使用して下さい。

### Q&A

Q. 強いステロイド外用剤を使用すると、副作用が心配です。

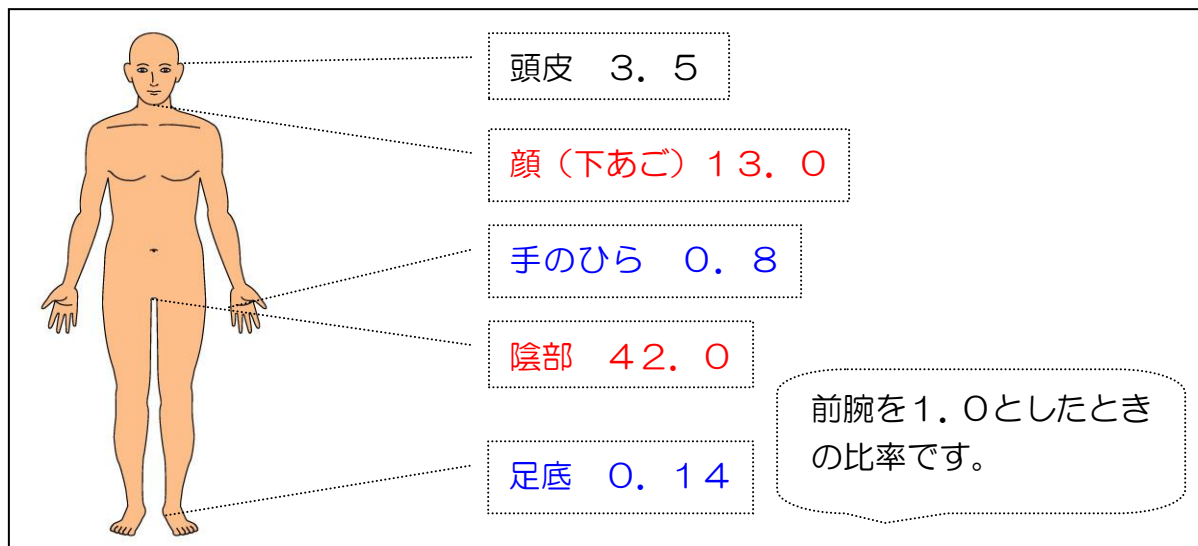
A. 「ステロイドは怖い」と過度に心配されている方が多くみられます。

ステロイド外用剤は、正しい使用方法であれば全身的副作用（内服薬と同じ副作用）が問題になることはほとんどありません。重症の時は効力の強いステロイド外用剤を短期間使い、症状を速やかに改善させてから、より弱い外用剤に変更していきます。重症時のはじめから弱いステロイドを使用することで、皮膚等の炎症を悪化させたのでは、長期間ステロイドを使用することが必要となり、結果としてそのほうが問題となります。

※裏面に続く

## ② 部位による吸収率のちがい

健常皮膚では、部位によってステロイド外用剤の皮膚からの吸収率が異なります。吸収量には皮膚の角層の厚さや血流などが関係しています。一般的に顔の表面や陰部などは吸収されやすく、手のひらや足底などは吸収されにくい部位です。病変皮膚では角層のバリア機能が低下しており、さらに吸収がよくなっています。



## ③ 塗り方

では、実際に薬をどのように塗ったらいいのかをみていきましょう。

### Q&A

Q. いつ塗ったらいいですか？

A. 入浴後の塗布は効きがよいとされます。また、入浴後は改めて塗布する必要があります。1日2回でしたら朝、夕(入浴後)とするのがよいでしょう。決められた回数をきちんと守り、使用することが大切です。

Q. 擦り込んだほうがよく効きますか？

A. 擦り込むのはよくありません。炎症のある部位に塗るわけですから、刺激となるような塗り方はしてはいけません。また、ステロイド外用剤は薄く塗ってもよく効きます。クリームタイプのものは、その白色が消えるまでやさしく塗り広げます。

使用量の目安については、別紙を参照してください。

## ④ 最後に

ステロイド外用剤を含め、どの薬にも副作用はあります。

副作用が生じた場合、中止あるいは適切な処置を施すことにより、多くは回復しますので安心してご使用ください。

自己判断で中止、増量するなどせず、決められた量、部位、期間等を守って、医師の指示通り正しく使用することが大切です。